

デジタル田園都市国家構想交付金の効果検証について

1 制度の概要

デジタル田園都市国家構想交付金は、「デジタル田園都市国家構想」の実現を通じて地方の社会課題を解決し、魅力を向上させる取り組みを深化・加速させる目的で創設された交付金で、補助率は1/2となっています。

この交付金は、令和4年度まで「地方創生推進交付金・地方創生拠点整備交付金」として交付されていましたが、国の制度改正により「デジタル田園都市国家構想交付金」として一本化されたものになります。

※令和7年度からは、さらに制度改正され、「新しい地方経済・生活環境創生交付金（第2世代交付金）」へと変更されています。

2 志摩市で実施する交付金事業

本市では、内閣府から交付金の交付を受けて、令和6年度に以下の事業を実施しました。

・デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ)事業

事業名	事業費 (交付金実績額)
(1)観光周遊の促進を目指した持続可能な観光地づくり事業 【継続・2022年度採択】	8,000,000円 (4,000,000円)
(2)買い物利便性向上事業 ～多角的な買い物手段による持続可能なまちづくり～ 【継続・2022年度採択】	470,000円 (235,000円)
(3)若年層の定住を促進するしごと創造プロジェクト 【継続・2023年度採択】	16,874,200円 (8,437,100円)

3 デジタル田園都市国家構想交付金事業の主な効果

(1) 観光周遊の促進を目指した持続可能な観光地づくり事業

【実施結果】

<地域特産品の拡大・情報発信事業>

- ・大王崎周辺の無人販売店舗「良心市」を通年運営し、空き店舗や八幡公園等を活用した新たな取組として、カプセルトイ（ガチャガチャ）やグッズ・小物販売を展開した。地域事業者への貸出しも実施し、販売拠点の拡大を図った。また、Webサイト「大王崎びより」やInstagramなどのSNSを活用した観光情報発信を強化し、イベント参加者の応募フォーム運用等による情報発信プラットフォームの充実を図った。

<伊勢志摩国立公園の景観を活かした観光事業>

- ・地域情報誌「さみっとくらぶ」において、年間5回のイベント広告をはじめ、SNS発信、ポスター制作など多角的な広報を展開した。ARフォトフレームスマホアプリを制作・運用し、3種類のフレームと5種類のスタンプを選択可能にするとともに、顔出しパネル設置により新たなフォトスポットを創出した。2027年の大王崎灯台100周年に向けての「ほしがってね大王崎」キャンペーンでは情報掲示板や顔出しパネル4種類の設置、AR連携、夜間参観での特産品試食を実施した。

<地域における観光滞在時間向上事業>

- ・「大王星空映画祭」（2024年11月2日）を開催し、映画鑑賞とお笑いライブ、夜店、ビンゴ大会を組み合わせた複合イベントを実施した（※灯台夜間参観、星空観察は荒天のため中止）。また、「絵かきの町大王美術大学生の絵画合宿」（2024年11月8～10日）では美術大学生7名と高校教諭4名が参加し、7点の作品を制作してWebギャラリー・街角ギャラリーでの展示を予定している。

<志摩ストーリー発見観光バス支援事業>

- ・観光客に志摩の魅力を伝えるだけでなく、課題である周遊性の向上・消費額の拡大につなげるため、宿泊と志摩ならではのコンテンツ（海女漁見学、漁港見学、大王街並み散策、観光列車特別運行、志摩の匠の写真撮影等）を組み合わせた旅行ツアーを11コース造成・販売し、933名が参加した。

【効果】

<地域特産品の拡大・情報発信事業>

- ・無人販売店良心市の通年運営により、空き店舗や未活用地の有効活用が促進され、地域業者との連携による販売拠点の拡大も実現。SNS・Web活用による情報発信強化により、観光客への観光情報提供ツールが拡大した。

<伊勢志摩国立公園の景観を活かした観光事業>

- ・ARアプリや顔出しパネルの設置により、新たな観光体験・写真スポットが創出され、観光客の周遊性と満足度向上に寄与した。多角的な広報展開により、地域の認知度向上を図ることができた。

<地域における観光滞在時間向上事業>

- ・複数のイベント・キャンペーンの相乗効果により、観光地巡遊から地域回遊、滞在時間延伸のサイクルが醸成された。美術大学生合宿では、参加者11名により地域の魅力を再発見・発信する機会を創出し、大王星空映画祭では、出店店舗の中で、実際に新規飲食店が2店舗開業するなど、地域への波及効果も確認された。

<志摩ストーリー発見観光バス支援事業>

- ・物見遊山の見学だけでなく、テーマを持ったコンテンツは、参加者の満足度が平均83.6%と高く、再訪率向上・リピーターの獲得につながった。

(2) 買い物利便性向上事業～多角的な買い物手段による持続可能なまちづくり～

【実施結果】

- ・令和6年度は事業3期目として、事業者募集を3回実施したが、応募事業者が無かった。なお、令和5年度補助対象事業者に対しては、運営費の継続補助を行った。

【効果】

- ・「補助事業の平均売上高」に関して、前年度と比べて大幅に改善傾向にあり、年間利用者の増加により事業の自走化が期待できる。
- ・「解消された買い物困難地域数（自治会単位）」に関しては、令和6年度に増減は無かったものの、事業期間を通じた目標を大幅に達成した。

(3) 若年層の定住を促進するしごと創造プロジェクト

【実施結果】

- ・創業支援補助金や創業交流会の実施による創業の促進、就職活動サイト「マイナビ」への採用情報掲載による採用情報の発信、雇用創出助成金等による雇用受入の促進を実施。加えて、令和6年度からは市内企業DX推進事業として、デジタル人材の育成講座、DXセミナーを実施した。

【効果】

- ・伊勢志摩地域の高校生を対象に、進路や将来的な定住に関するアンケートを実施し、若年層の定住に必要な総合的な環境に関する傾向などを把握することができた。
- ・KPIの達成状況は、令和5年度から増加したものの、年間の創業希望者数が少なかったため、「支援を経て創業した創業者数(第二創業含む)」に関しては、78%であった。また、「助成金を活用した新規雇用数」についても62%であったが、事業期間を通じて79%と目標値の7割以上を達成した。一方で「社会減による人口減少数の改善数」及び「デジタル人材養成講座の受講者数」に関しては、目標を大幅に超え達成した。

4 デジタル田園都市国家構想交付金事業の主な課題と今後の取組

(1) 観光周遊の促進を目指した持続可能な観光地づくり事業

- ・無人販売店「良心市」の運営に関し、現状の販売形態では観光消費額の拡大に限界があることから、さらなる収益性を高める取組が必要である。大王崎周辺の魅力向上を目指し、「良心市」の施設のリニューアルや新たな活用のほか、八幡公園入口付近の空き地について、休憩場・写真スポット・情報発信拠点としての整備を検討する。環境整備と並行して、2027年の大王崎灯台100周年を見据えたPR活動を計画的に展開していく。
- ・各体験コンテンツにおいて派遣するガイドの確保が課題である。更なる観光客の満足度向上につなげるため、引き続き観光協会と連携し、ガイドの育成を行っていく必要がある。

(2) 買い物利便性向上事業～多角的な買い物手段による持続可能なまちづくり～

- ・令和5年度に本事業による実施地域は大幅に増加したものの、事業者により運営状況に大きな差が生じているため、引き続き事業者と自治会、関係機関からの聞き取りや買物需要の把握に努める。
- ・事業を実施していない地域についても、改めて課題を分析し、買い物支援需要がある未実施地域の把握を進めるとともに、必要に応じてそれら地域への事業実施地区の拡大を採択事業者と検討していく。

(3) 若年層の定住を促進するしごと創造プロジェクト

- ・事業効果を確立していくためには、各種事業のターゲット（特に県外の若年層）に対する、取組周知が不足している。解決していくために、ターゲットのペルソナ設定（細分化）の実施や民間企業の広報媒体等の調査を行い、より効果的な媒体の活用を検討していく。
- ・生産性向上や付加価値を高め、市内事業者の魅力を向上させ、魅力ある雇用機会を創出するため、引き続きDX化の支援を行っていく。